



ショッカーに注意の看板



放水!



ショッカーたち

## 水の思い出 ④5

昨年8月、常陸太田青年会議所が主催した「久慈の杜100km徒歩の旅」の報告書の中から参加した小学生の感想文の一部をご紹介します。

100kmの旅の3日目のことでした。ある休憩の時に「ショッカーに注意」という看板をみつけて、「ショッカーって何だろう？工事の機械かなんかかなあ？」とサブリーダーに聞くと「仮面ライダーのショッカーだよ」と教えてくれました。冗談かな？と思ったけれど次の休憩場所に着くと、本当に黒い服と覆面を着けたショッカーが現れたのです！！そして、いきなり水を雨のように放水しました。とてもぬれたけれど、涼しくなって楽しかったです。

(稲荷第二小6年 平間 大介/当時)

「自然の恵みや多くの人たちのさまざまな支えがあって生かされていること」を感じ、感謝することは、この事業の中の大きな柱のひとつです。真夏の炎天下の中、100kmの道のりを歩く事業において、休憩所での水かけ、給水はまさに水のありがたみを、子どもたち、ボランティアの学生たち、そして一緒に歩いていた大人たちにも感じさせるものでした。今年の夏も歩きます。久慈の杜100km徒歩の旅、ふたたび!

(第2回久慈の杜100km徒歩の旅 実行委員長 川崎 浩文)



# 写真で見る鯨ヶ丘 今昔

友人や  
苦しい  
大正初



▲太田小学校  
◀木造校舎だった  
太田小学校正門



●宮本町

▲太田郵便局付近から西山公園方面



●西一町

▲奥に見えるのは米菱醤油さんの煙突でしょうか



●東一町



●東二町



●東三町

「大正14年6月28日発行の大日本職業別明細圖之内」から

家族と思い出を話し始めると、つい時間を忘れて盛り上がってしまうことはありませんか？  
思い出もあるはずなのに、出てくる思い出は楽しかったことばかり。  
期の鯨ヶ丘の写真と現在の写真を並べて、地図とともにご紹介します。



Ⓑ 中城町



Ⓒ 塙町

◀ 東一町と二町の  
境から塙坂方面

頃の  
付近



Ⓓ 木崎一町

◀ 現在のふれあい公園(旧消防署  
跡地)にあった元太田警察署



Ⓔ 内堀町



Ⓜ 太田駅前

◀ 左奥へと続く道が、  
太田街道のようです



Ⓚ 西三町

▶ 杉の葉で作ったとい  
う門の奥に見えるの  
は現在の郷土資料館  
別館の屋根です



Ⓛ 西二町

このページで紹介している古い写真は東三町にあ  
った銭湯・亀の湯の小倉幸市さんが大事に保管してい  
た風景はがきです。はがきには「河北三郡連合共進会  
記念」とあり、「大正二年」の文字も読み取ることが  
できます。多くの写真の中に見える大きな構造物は、  
共進会のために杉の葉を用いて各町内ごとに建てられ  
た門。風景写真が伝えるものは、大きな行事の開催と  
いう事実だけにとどまりません。写真の中の人々の姿  
や建物、変わらない道幅、大きく違う路面。当時の太  
田の活気ある町の音が聞こえてくるようです。



Ⓝ 金井町

▲ 金井交差点から西へ約60m地点、板谷坂を望む

# 黄門様と太田のまつり

元禄4年(1691年)西山荘にご隠居した徳川光圀公、黄門様は、元禄5年4月15日の若宮八幡神社の祭礼を見物している。黄門様に何くれとなく仕えていた久昌寺摩訶衍庵まかえんあんの日乗上人の記した日記『日乗上人日記』稻垣国三郎著(原本は久昌寺所蔵市指定文化財)にその様子がうかがえる。

「このほど黄門様のお考があつて、今日、太田のまつりを見物にいくことにしたので久昌寺十坊の修行僧を召し連れてまいれという。そこで、午前10時ごろ西山荘に参り、太田へお出ましのお供をした。太田の庄屋次右衛門宅へお入りになると、通りの面に御棧敷しきが設えてあつた。そこで、みんなで見物をした。いなかといわないまでも、盛大で荘厳なお祭りだ」と記しているから黄門様もこの御棧敷で太田の祭を見物したことになる。

その4月15日(旧暦)は、若宮八幡神社5年に

一度の祭事をしていた久慈浜釜坂八幡宮までの磯出祭礼の日である。そのお祭りが、京都から来ていた日乗上人も「いかめしき」といったくらいですから、さぞ荘厳で盛大なお祭りであつたにちがひありません。その後、庄屋の奥座敷に入って、僧侶を含め、黄門様たちは酒宴に入つたということです。太田のまちで棧敷に乗って盛大な祭礼を見物する黄門様を思い浮かべてみてください。

(石川 誠)

「此のほど御意ありて、今日太田のまつり見物に十坊等召し連れ、参るべきよしなり。略：予は、巳の刻西山に参りて、太田へ出御しゅつぎょとも、次右衛門所被為入。おもて御さん敷しつらいたり。そこにて、皆々見物せし。いなかともいはずいかめしき祭也」

(原文ママ)

日乗上人日記より



大正7年5月15日 若宮八幡宮春の祭礼 東三町 根本りゅう子さん提供



子ども達に 生きる力 を！  
この夏一生の思い出を！

# 『久慈の杜100km徒歩の旅』

「地域の子供達は地域で育てよう」

そんな想いで、小学生4年生～6年生を対象に8月7日～8月11日の5日間かけて、常陸太田市、常陸大宮市、大子町の100kmのコースを、徒歩で歩きぬく「体験学習事業」です。行程中の生活支援全般は約60名の学生ボランティアスタッフによって行われます。昨年第1回に参加した6年生が今年中学生となってボランティアとして参加します。またこの学生達は、事業当日の参加費はもちろん、本番前に行われる研修会の交通費、昼食代をすべて自己負担で参加してくれています。今回は多数の学生の中で常陸太田市出身の3名を紹介させていただきます。



(第2回久慈の杜100km徒歩の旅 団長 上田 進)



(大里町 檉村 彩沙 茨城大学3年)

今年の夏、私にとって2度目の100kmに挑戦します。この旅の5日間は、参加する子どもだけでなく、私自身も大きく成長できるチャンスです。8月11日、100kmを全員で完歩し最高の思い出を作りたいと思っています。

← 左から2人目



(幡町 飯村 美起 茨城高専4年)



右端 →

昨年の徒歩の旅で子ども達は、経験した事のない大変な道程にも負けず、ボランティアである私たちにもキラキラした笑顔で沢山の「ありがとう」をくれました。子どもたちが自分のたくましい力に気づき、そしてそれが自信へと繋げることができるよう、私は今年も少しでも手助けができればと思います。



(上利員町 鯉淵 貴弘 茨城キリスト教大学3年)

僕がボランティアを行うきっかけとなったのは、ボランティア募集の広報紙です。広報紙のなかで、久慈の杜100km徒歩の旅のボランティア募集がありやってみたくて思いました。私は人のために役に立つのが好きということもありぜひやってみたくて思いました。仲間達と協力して、最高の100kmになるように一生懸命やっていきたいと思っています。



インストラクター  
MASAYOSHI

## 福地正義ダンススクール レッスン生募集

常陸太田市内に住むインストラクターがダンスの基礎から指導します。

ダンスジャンル：ヒップホップ・ロッキングを中心としたストリートダンス

レッスン日時：毎週金曜日（月4回） 17時～18時

レッスン場所：スタジオ Bonds（東二町 鯨ヶ丘倶楽部1F）

対象年齢：幼児～小学生（一般参加も可） 募集人数：25名程度

レッスン費用：¥3000/月 お問い合わせ：0294-76-1484  
090-2333-1417





# みんなで踊ろう みなサンバ



昨年の太田まつりで盆踊りや舞祭の参加者全員で踊れるようにと作ったみなサンバ（太田まつりソング）は、予想以上の反響があり、今では小学校、幼稚園、保育園などで踊られています。

作詞作曲が常陸太田市在住の方たちで、さらに歌っている人も、常陸太田市在住の小・中学生で構成されています。踊りは、誰でもすぐに覚えて踊れるように簡単な振り付けになっているため、小さなお子様からご年配の方まで、みんなで一緒に踊れます。今年の太田まつりは、みなサンバで昨年同様会場が一つになって盛り上がります。みなサンバを見て踊ってみんなで太田まつりを楽しんでください。（中里 勇）



CD、レッスンDVD問い合わせ先  
太田まつり実行委員会 藤田 謙二  
TEL 0294-72-2323



15日 会場全員



14日前夜祭 サンバ隊と一緒に



みなサンバを歌っている人たち

生涯学習情報誌「フォズ」は、全世帯に2~3ヶ月毎に配布され、  
大きな宣伝効果が期待できます。ぜひご利用下さい。

◆広告を募集している情報誌

平成21年9月から平成22年4月までに発行予定の  
生涯学習情報誌「フォズ」第47号から第50号

◆広告料(1回あたり)※会長が指定するページの最下段

- ① 縦4.5cm×横 8.8cm/10,000円
- ② 縦4.5cm×横17.9cm/20,000円

問合せ

フォズ・ネットワーク事務局  
(生涯学習センター内)

TEL:0294-72-8888

URL:<http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/gakushu/>

百姓母ちゃんの  
たべもの日誌⑭  
ちよと農天気!

『ありがとう!キュウリ君』

夏といえばキュウリ。これがもううんざりするくらい採れるので、せめて余ったキュウリの保存くらい簡単にやりたいと思って、出会ったのが“ロシアのディル・ピクルス”。ピン詰め超簡単な方法で、常温保存でき、そのまますぐに美味しい。作り方は①1ℓのガラスビンに小さめのキュウリを縦に入る長さにカットしながら詰めてゆく。そこに熱湯を口までいっぱい注ぎ、2分間おいて捨て、もう一度それを繰り返す。②鍋に水1ℓ・塩大さじ2・砂糖大さじ1・ディル・ニンニク・粒コショウ少々・月桂樹の葉1枚を入れ10分間煮立てる。③その熱々の調味液をキュウリの入ったビンの肩まで注ぎ、大さじ3の酢を入れてきっちりフタをして冷ます。1ヵ月後には酸味の利いた美味しいピクルスになっているはず!ピンさえあればまとめて10本くらい作れ、そのまま手土産にも良い。

キュウリやトマト・ナスといった果菜類は、根・莖・葉を伸ばす栄養生長と実をつける生殖生長を同時にする植物だそう。人間でいえば、体がどんどん大きくなりながら、子供もどんどん産んでしまう!?そういう生き方をしているそう。だから、1本の苗から沢山長く実を収穫するコツは、根をできるだけ広く張らせて、栄養をいっぱい吸収できるように根莖を充実させること。そのためにはまず、葉元からでる脇芽や花芽を最初の6段目くらいまですべて摘んでしまうこと。「キュウリ君、君はまだ花をつけるほど大人になってないから、もう少し辛抱してね。」と言い聞かす。そうするとキュウリは「じゃあもつと根莖葉を伸ばせばいいんだね」と思ってぐんぐん根を張るそう。そして、ピクルス・漬物・サラダ等、たくさんの美味しいものをもたらしてくれる。キュウリ君に感謝の夏。

(木の里農園  
布施 美木)



子育て奮闘記

踊るママパラダイス 45

誰も私を知らないどこか遠くへ行きたいと思ったことはありますか?私はありません。

コウスケの発達に問題があると言われたとき、私はコウスケを連れて競争の少ないどこか知らない場所に行きたいと思いました。どん底に突き落とされた感じがずっと続き、「どうして。」という思いと「どうしたらいいか。」という迷いだけが私を支配していました。

誰かに冷たくされたわけでもないのに友達の輪からもはずれました。コウスケは私が育てなくてとは思いつめていたとき、スーパーでうどんの試食販売前を通りかかると小さなコウスケは、ふっとカップに入ったうどんに手を伸ばしました。瞬間的に「だめ!」とその場を離れようとする販売員のおばさんが「お母さん、あげていいんだよ。食べさせてあげなよ。買わなくてもいいんだよ。」とカップを差し出してくれました。そのとたん私の目から涙があふれ出してしまいました。おばさんは、私たちの事情を知っていたわけではありませんが、優しい言葉に張り詰めていた感情が流れ出しました。

あれから10年以上たって、積極的に輪に入ることはしませんが、気持ちを打ち明けられる友達があります。コウスケ自身も人の中で生活しています。私は、あの時のことを忘れません。色々なことで、それぞれの悩みを抱えているお母さんたち。見渡せば気づける優しさに出会えるかもしれませんね。頑張りましょう。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

あの時も1人でした



リレー  
エッセイ「思い出の絵本」『まんじゅうこわい』 ~45~ (山下町 於曾能 幸枝)

私が紹介する本は、落語シリーズのひとつです。落語というと、ご年配の方が楽しむものと思いがち!いえいえそうではないんですね。何年か前に、朝の連続テレビ小説で『ちりとてちん』という落語を取り上げたお話があったのを覚えていますか?その時、落語の楽しさ・魅力♪に、はまってしまいました。

そんなお話が、絵本にもあると知りました。中でも私が大好きなのが『まんじゅうこわい』まんじゅうが怖いなんてどういうこと!?私は大好きなのに…このお話に登場してくる“松つあん”はなかなかのくせ物。町内の若い者の集まりで、自分が嫌いなものを言うことになりました。へび・たぬき・くも・こうもり・けむし・お化け…。この松つあんは、「まんじゅうが怖い!!」と言ったのです。並べてみれば15を超える種類のまんじゅう。みんなが嫌いと言ったものを平気に軽くかわして寝ている松つあんの脇に、みんなは町中から集めた山ほどのまんじゅうを置いて様子を見ることにしました。怖がるはずの饅頭を「まんじゅうこわ〜い」と言いながら美味しそうに食べてるではないですか。これが松つあんのこんたんなのです。最後に落ちがあるのも面白いところです。

この本の作者川端誠さんは、「落語は聞けば聞くほど面白いもの。ストーリーも楽しみながら[間]や[呼吸]を楽しむもの」と書いています。自分なりに「間」を取りながら読むことができ、いっそう想像がふくらみます。保育園児だった娘も『まんじゅうこわい』のとりこになりました。娘は「ハッピーセットがこわいよお〜」なんて言っていました(笑)。絵もインパクトがあって、どこか懐かしさを覚えます。この機会にぜひみなさんも笑いの世界をいかがですか?

(次回は 幡町 渡邊 恵子さん)



ほつ  
とひといき **カマキリモドキ**

カマキリモドキという生き物を発見しました。

体長は約2cm、体色は黄色で茶色いカマキリに似た前足で小さな昆虫をとらえます。

北海道から九州まで広く分布しています。

ウスバカゲロウに近い仲間で、幼虫はクモなどの卵のうに寄生して成長します。

(古平 均)



ちよつとひといき

「マリンのおやつ」



常陸秋そばで有名な旧金砂郷の赤土地区にそのお店、「マリンのおやつ」はあります。細い山道を登っていくので、お店が見えるほっと安心する方も多いとか。築70年のたばこの乾燥小屋を改造したお店には子供の遊びスペースや、手入れのされたきれいな庭があり周りの木々も見渡せます。

お勧めは坦々麵風ベジタリアンラーメン。トッピングのチャーシューやひき肉も大豆でできているのですが、まるで本物のお肉のよう!スープも植物性だけとは思えないほどコクがあります。牛乳、卵を使わないティラミスやカボチャプリンなどのデザートもあります。

常陸太田市赤土町2740-4  
営業時間 11:00~16:00  
定休日/日・祝祭日 ☎0294-76-9800



常陸太田の地名話 ~2~

おちあい  
落合 【太田地区落合町】

落ち合うので名付けられた。古老の話によると、むかしの里川は、峰山にあたって、東に流れ小沢を経て久慈に至って、久慈川に注ぐ川であった。それを、年代は分からないが、磯部と内田との間を切り開いて里川を久慈川に合流させたので落合の名がおこったといわれている。(石川 誠)

『水府志料』『大甕より久慈濱あたり』より

里川の流  
れがこの  
地域に  
来て久  
慈川に

